



生協連会報



2023

11

<お知らせ>

「令和5年度消費生活協同組合（連合会）等厚生労働大臣賞」受賞

<活動報告>

第3回地域・まちづくり委員会開催報告	2
第1回職域生協部会開催報告	4
第1回地域生協部会開催報告	5
政策検討会開催報告	6
第3回食・消費者委員会開催報告	8
エコメッセ開催報告	10

No.523



千葉県生協連は、

「令和5年度消費生活協同組合（連合会）等厚生労働大臣賞」

を受賞しました

この表彰は昭和23（1948）年に制定された消費生活協同組合法を記念して5年ごとにおこなわれるもので、健全な事業運営を行い、他の模範と認められる組合・連合会に対し、その功績をたたえるため実施されるものです。今回は、法制定75周年を記念して、「千葉県生協連」をはじめ、31の組合・連合会と29名の個人が表彰されました。

10月23日に、ベルサール虎ノ門において表彰式が挙行され、首藤英里子会長理事が受賞者を代表し、表彰状を授与されました。



千葉県生協連の主な活動予定 2022.10～2022.12

11月			12月			1月		
日	曜		日	曜		日	曜	
1	水		1	金	MCA無線通信訓練	1	月	
2	木	サポちば理事会	2	土		2	火	
3	金		3	日		3	水	
4	土		4	月		4	木	
5	日		5	火	消団連第3回代表幹事会	5	金	
6	月		6	水		6	土	
7	火	MCA無線通信訓練	7	木		7	日	
8	水	「子どもたちに平和な未来を2024」第1回実行委員会	8	金		8	月	
9	木		9	土		9	火	MCA無線通信訓練
10	金		10	日		10	水	全国方針検討集会
11	土	4都県生協連共催企画講演会	11	月	第4回食・消費者委員会	11	木	サポちば理事会
12	日		12	火		12	金	全国方針検討集会
13	月		13	水	第4回地域・まちづくり委員会	13	土	
14	火	消団連見学	14	木	臨時総会	14	日	
15	水		15	金	中央地連大規模災害対策協議会	15	月	
16	木	環境生活部との懇談会/第4回理事会	16	土		16	火	
17	金		17	日		17	水	
18	土		18	月		18	木	
19	日		19	火		19	金	
20	月		20	水		20	土	
21	火		21	木		21	日	
22	水		22	金		22	月	
23	木	ネットちば幹事会	23	土		23	火	
24	金		24	日		24	水	
25	土	「なくそう！子どもの事故」学習会	25	月		25	木	第5回理事会
26	日		26	火		26	金	
27	月		27	水		27	土	
28	火		28	木		28	日	
29	水		29	金		29	月	
30	木	大規模災害対策協議会	30	土		30	火	
			31	日		31	水	

第3回地域・まちづくり委員会報告



日 時：2023年10月4日（水）10：00～12：00

開催方法：Zoom を活用した Web 会議

出 席：宮本 丸岡（パルシステム千葉）、篠原（コープみらい）
柴山（生活クラブ千葉）、大見（ちば住宅コープ） 敬称略
尼崎 竹内（千葉県生協連）

内 容

1. 学習会

テーマ：「防災とジェンダー」

多様性を活かした災害対策や災害時の対応について

講師：浅野 幸子先生

減災と男女共同参画研修推進センター共同代表

早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員



浅野先生

今回は、地域・まちづくり委員以外に、学習テーマに興味のある各会員生協役職員にも参加をよびかけ、13名の参加がありました。

はじめに浅野先生ご自身が、阪神淡路大震災の時にボランティアとして被災地に入った時の実体験に基づくお話がありました。そのような観点からの話は日ごろの備え、災害の種類による対応や避難など、個別の内容が整理され「すべての人が助かるため」につながることでよくわかりました。例えば 生協という組織の一員として災害時に地域社会に役立つためには自分自身が無事であること、家族、家庭の心配事がないことが前提であることなど、参加者への気づきにもつながりました。またなぜ避難所運営にジェンダーの視点が必要なのかということについては、性別や立場の違いでの困難がどうしても起こってしまうことが、過去に起きた多くの災害時のデータをもとに具体的な説明があり、その対応には女性の経験値や配慮の細やかさや、話しやすさなどが大変重要であると説明されました。また、昨今は、在宅避難が推奨されていますが、支援体制の構築として国分寺市の取り組みの紹介がありました。

様々な立場の人が災害にあっても助かる社会は、多様性を認め合う社会であることが重要と改めて学びました。とても気づきの多い内容でしたが、先生のお話が大変面白く、あっという間の1時間でした。



参加者からは「実際の訓練では、避難所のリーダーも、行政から派遣された職員

も男性で、その手足となって動くのが女性という構図ができています。その状態を改善するための意識改革はどうしたらいいのか?」「近いうちに災害が起こる可能性が高いので、組織の一員としての責任を全うするために、まず自分の家庭での対策をきちんとすることを始めたい。」「自分自身の管理、家族のケアなどが抜けていた」「エンパワメントの視点を持った適切な支援という言葉が印象に残った」「組合員の方々にもこのような学習の機会を提供すること役割の必要かもしれない」「意思決定に多様な人が参加するためにも地域の組合員さんの力は大きい」などの意見ができました。

2. 委員会

(1) 学習会の感想、意見共有

学習会の内容について、意見共有をおこないました。

(2) 会員生協からの活動報告

○パルシステム千葉 県内各センターの予備青果の寄贈先の子ども食堂に、センター長とともに訪問し、子ども食堂の活動や、今後生協がどのような支援ができるのかなどのヒアリングおこなっています。今回は松戸センターの寄贈先の「こがねはら子ども食堂」を訪問しました。「子ども記者!!夏休み宿題応援企画」として県内3か所のフードバンクに子ども記者が訪問し、その内容を新聞にまとめました。

○コープみらい リビア洪水に対する募金活動をおこなっています。集めた募金はユニセフ自然災害緊急募金に送金します。「コープみらい ヒロシマ・ナガサキ平和の旅」に参加した子どもたちからの報告会を開催しました。千葉県内の活動では、みらいひろばや、松戸市との共催の夏休み親子企画、君津センターの見学、コープみらいカレッジなど夏休みということもあり、子どもと一緒に参加する企画がおこなわれました。

○生活クラブ 地域で活動する団体への助成「エコロ福祉助成」の応募が9月から始まりました。デポー木刈街の縁側へで開催している「みんなの食堂」では「お茶しませんか」プロジェクト継続支援としてウクライナから避難してきた方への参加を呼び掛けています。フードドライブ活動への支援として「買って応援!たすけあいセット」の実験的取り組みをおこない、組合員から394セットの申し込みがありました。

(3) 次回の日程について

2023年12月13日(水)13:30~

以上

日時 2023年10月12日(木) 10:00～12:00

開催方法 ZOOMを活用したWEB会議

出席 鶴岡(千葉県庁生協)、石原(千葉大学生協)、有吉(東邦大学消費生協)、風間(日本生協連職域生協事務局) 尼崎・竹内(千葉県連) 敬称略

内容

1. 公開学習会

《テーマ》 職場におけるダイバーシティ推進

～すべての人が働きやすい職場づくりをめざして～

《講師》 中村 由香さん

生協総合研究所 研究員

本学習会のテーマは、会員生協の職場環境づくりに通じるものであり、また千葉県でも多様性が尊重され、誰もが活躍できる社会を目指す条例の制定の動きなど、関心の高い内容のため会員生協関係者にも参加を呼びかけ事務局を含めて25名の参加がありました。

講師からは、職場でのダイバーシティ推進を進める理由について、生協関係者からのヒアリングや、各種データに基づきわかりやすく説明していただきました。

2. 職域生協部会

(1) 開会あいさつ

鶴岡部会長より、改めて公開学習会の目的と千葉県の状況について話がありました。

(2) 学習会についての意見交換

「今回の話は職域生協のような小さな組織でも取り入れやすい内容だった」「昭和の時代とは全くちがう。考え方を改めないといけないと痛切に感じた」「大学生協は大学構内の施設対応はできないが、男性が働きやすい職場環境をつくることはからはじめて、マイノリティの方への職場対応を進めていけるのではないか」「若者は職場環境、自分の生活環境をととても重要視している。仕事上のイレギュラーの場合の対応も考えていかないといけない。」「女性登用は、新規採用時から考えなければいけない」「採用、定着が難しい。今日の話は役に立った。工夫できそうなことがある」

(3) 2023年度上半期事業交流と下期の課題について各生協からの報告

千葉大学生協、東邦大学消費生協、千葉県庁生協より、食堂事業や購買事業、共済事業等についてコロナが収まった上期の状況について報告がありました。

(4) 日本生協連職域生協事務局からの報告

- ・日生協職域生協事務局の活動報告・今後の全国職域生協協議会などの予定について
- ・2023年度ちょっと工夫コンテストについてほかの説明および報告がありました。

(5) 第2回部会の日程 2023年3月6日(水曜日) 10:00～ 視察研修を予定



講師:中村由香さん



参加者のみなさん

2023 年度地域生協部会 (コープみらい茂原センター懇談) 開催報告



日 時 2023 年 10 月 16 日 (月曜日) 15:00~16:30

会 場 コープみらい茂原センター会議室

参 加 者 (敬省略)

岩田・大野・大手 (コープみらい)、関・森川 ((株)トラストシ
ップ)、岩崎 (なのはな生協)、山田・黒崎 (パルシステム千葉)、原
田・松島 ((株)パルシステム・イースト)、首藤・河田 (コープみら
い)、埴・羽良 (生活クラブ生協)、尼崎・佐久間 (千葉県生協連)

概 要

10 月 16 日に地域生協部会として、災害時の
対応に関する懇談会を開催しました。今回は 9
月 8 日に上陸した台風 13 号による大雨被害へ
の配達への対応について、懇談をおこないまし
た。今回の台風 13 号は 9 月 8 日 (金) に関東・
東海地方に上陸し、その影響で線状降水帯が発
生し、床上浸水等の大きな被害が発生しまし
た。特に茂原市、長南町等は局地的に大雨が降り
続き、冠水やがけ崩れによる道路の通行止め等
が発生しました。そのような中、コープみらい茂
原センターでは、当日の 20 時には全員が無事
に帰着し、翌日には 531 件の再配達をおこない、
浸水被害でお届けできなかった家を除いて、全
てお届けすることができました。この教訓を学
び活かすことを目的に懇談をおこないました。



ご報告いただいた皆様

【茂原センターの対応のポイント】

- ・担当者からの動画・写真等のリアルな情報収集
- ・身の安全を最優先し、配達停止等の躊躇ない指示や判断
- ・事務職員も含めた全体での応援体制
- ・過去の教訓を活かした対応
- ・センター全体での情報共有・協力体制

報告後、質疑応答をおこないました。質問
としては「配達停止の判断は何を基に誰が、
いつ、おこなったのか?」「当日配達できな
かった商品を翌日配達する消費期限の基準
について?」「組合員への連絡方法は?」「注
文は翌日に間に合ったのか?」等、活発な意
見交換がありました。



全体の様子

以上

2023 年度千葉県生協連政策検討会開催報告



日 時：2023 年 10 月 19 日（木）10：00～14：00

会 場：三井ガーデンホテル千葉 3 階『平安東』

参加人数：5 会員生協他 49 名（講師、事務局含む）

政策検討会は、会員生協が次年度の活動方針を考えるうえで必要と思われるテーマを設定し、開催しています。今年度は、松戸市役所の大和 望さんとパルシステム千葉の木村友秀さんを講師にお願いし、「地域共生社会」をテーマに、国が進める「重層的支援体制整備事業」と松戸市の「多世代まるごと居場所づくり」（「まつど DE つながるステーション」）の事例について学びました。（文責：事務局）

開会挨拶 千葉県生協連 首藤英里子会長理事

今、ウクライナ侵攻やガザ紛争、また物価高騰や気候変動など、様々な問題がある中、今回は「地域共生社会」をテーマに取り上げました。次年度の活動だけでなく、「協同組合のアイデンティティに関する ICA 声明」の「第 7 原則 地域社会への関与」の検証への参考にもしていただければと思います。



報告 1. 地域共生社会の実現に向けた動向と松戸市における取組

報告 松戸市総合政策部地域共生課 主査 大和 望さん

◆「地域共生社会」の実現のポイントは、「縦割り」の関係や「支え手」「受け手」という関係、「世代や分野」などを超えて、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく事です。

- ・これまでは事業のメインは行政がお金やサービスを渡すことだったのですが、「地域共生社会」の理念や概念から、人と人との関係を事業のメインにしているところが大きな違いといえます。



◆「重層的支援体制整備事業」は、「地域共生社会」を構築するための手段です。

- ・対象者は「地域住民、全員」です。誰にたいしても隙間なく対応できるように一体的に交付金が渡されます。誰もが相談できる包括的な相談支援・顔の見える関係、地域づくりに向けた支援・そのためにつなぐ形の参加支援、の 3 つの支援を入れて、自治体が自分たちにあった形にデザインする事業です。
- ・行政だけでなく、生協のような地域の団体などにもかかわっていただいて、市町村全体で支援体制をつくる必要があります。3 つの支援が重なり合っているところが、この事業の重要なポイントです。

◆「多世代まるごと居場所づくり」は、松戸市独自の施策です。

- ・初めに、松戸市内 15 圏域(地区・町内会自治会連合会や地区社協の区割り)で国のモデル事業「地域づくりフォーラム」を開催し、住民の方々に「可能な限り地域の課題は自分たちで解決しよう」という意識を持っていただきました。
- ・その後、3 年前に重層的体制整備事業として参加支援事業「多世代まるごと居場所づくり」を始め、その中で「まつど DE つながるステーション」を創設しました。

- ・「居場所づくり全体会議」で検討した後、15 地区ごとに多様な主体(町会・自治会・社会福祉協議会・市民活動団体・企業他)が参加する実行委員会を立ち上げ、誰もが参加でき市や地域の情報が得られる居場所づくりを検討しました。
- ・「ゆるやかにつながる・多世代が活用できる居場所」が住民の皆さんのきっかけとなり、そこでできた住民間の縁をつないでもらうことが目的です。課題のある方がいたら、他機関につなぐなどといったことも想定しています。

◆「地域づくりを考えていたら、気づいたら、そこに福祉が盛り込まれていた」がよいのではないのでしょうか。

- ・まずは知り合う、気かけ合う関係が大切。正しいか正しくないかだけでなく、正解がないからこそ、可能性があるのではないかと思います。

報告 2. サービス付き高齢者向け住宅における地域連携 松戸市との取り組み

報告 生活協同組合パルシステム千葉 介護事業部 部長 木村友秀さん

◆生協が出すぎない、主役は地域の方たちです。

- ・「多世代まるごと居場所づくり」事業の六実六高台地区の実行委員会に参画し、サービス付き高齢者向け住宅「にじいろばる松戸六実 地域交流室」で、巡回型居場所として認知症予防体操を開催しました。
- ・実行委員会では、その場を担う方たちを支援する立ち位置だということを心掛けています。これまで先行して取り組まれている方たちの関係性や状況を大切にし、配慮しています。私たちが課題解決に役立つためには、地域の一員として取り組む必要があることを実感しています。



報告を聞いた後、グループ交流をおこない、「地域共生社会」を考える上で一番大切にしたいことは何かを出し合いました。

大切にしたいこと・キーワード

- ・つながりを大切にする (行政、地域、社協、これからの組合員、他の団体…)
- ・多様なつながりの再認識と創出 ・いろいろな団体の人とつながり、情報を得る
- ・双方向の関わり ・知って気付く ・結果を恐れず、とりあえず行動してみる
- ・受け入れる、参加してみる



参加者の感想

- ・地域社会の中での共生を考えるきっかけとなりました。人と人、地域がつながる重要さは自分事として、生協として、一人一人が意識することが大切であると思いました。
- ・サービス付き高齢者住宅における地域と連携した取り組みがすばらしく、参考になりました。
- ・地域共生社会は、お互いが寄り添って協力し合うことが大切だと感じました。
- ・他生協や行政の方と交流できたことで、視野の広い意見交換ができ有意義な話し合いの場となりました。横のつながりを大切に活動に活かしたいです。

日 時：2023年10月25日(水) 10:00~12:00

会 場：千葉県生協連 会議室

出席者：北村・熊谷(パルシステム千葉)、高山(コープみらい)
(敬称略) 並木・中井(生活クラブ生協) 尼崎・依光(県生協連)

内 容：

2023年度第3回食・消費者委員会は、前消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会代表理事・副会長の大石美奈子さんを講師に、「再生可能エネルギーと電気料金について」と題して最近のエネルギー価格と電力需給について学習しました。

1. 「再生可能エネルギーと電気料金について」

講師：前消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会代表理事・副会長
大石美奈子さん

◆電気にも一生があることを、意識していただきたいと思います。

2016年に電気の小売全面自由化が始まり、2023年6月末時点で登録されている小売電気事業者が731社ですが、特に今年に入って撤退や廃止が増え、現在足踏み状態です。高压(工業用電力)・低压(家庭用電力)の新電力事業者のシェアは全体では17.7%。しかし最近の急激な価格高騰により新電力から大手電力会社に戻る方もいて、低压電力事業者のシェアは下がっています。消費者は、誰が何処でこの電気を作っているのか、電気を作るときにどういう廃棄物が出るか、それを買うことによって社会にどういう影響が出るかを考えずに電気を選んでいきます。電気は生活にとっての必需品だからこそ、私たちがどういう電気を選ぶかということが社会にとって大きなインパクトがあることを知っていただきたいと思います。



◆今回の電気料金の値上げの要因は、ウクライナ危機等によるエネルギー資源の高騰、円安などにあります。今後の情勢にも注意が必要です。

国内の一次エネルギーの国内供給は、化石エネルギーが約83%。すべてが発電に使われる訳ではありませんが、消費者としても電力料金の高騰は原燃料費が上がっているためだと、冷静に受け止める必要があります。

◆国土が狭い日本では、今、洋上風力発電に期待が寄せられ、モデル事業が始まっています。

日本は総発電量の20%ほどを再生可能エネルギーが占め、その多くが水力発電です。海外は昼夜を問わず発電できる風力発電が主流ですが、日本は土地利用の限界から、風力や太陽光発電なども伸びていません。「再生可能エネルギーの価格が高いから」ともいわれますが、原子力発電の建設費や放射性廃棄物の処理費用、化石燃料の高騰から見た際、再生可能エネルギーの建設等のコストを見込んだとしても安定的に供給できるようになれば高いとは言えません。また、蓄電池などを活用した電力の有効利用、また電力使用の時間帯の調整(ピークシフト)で電力の不足を補完するといった行動も、新しい発電所建設に匹敵する効果があります。消費者も、知識、知恵を持つことが大切です。

◆電気の中身がわかると「こういう電気が欲しい」と言えます。電気のしくみ、中身を知

ることが、とても大切です。

家庭でできる節電方法もたくさんありますが、消費者には、ぜひデマンドレスポンス（電力の需要量と供給量を合わせる）に参加していただきたい。電気は誰かがどこかで作って、運んでくれているから使えます。まずは使う時に、何で作られているのか、廃棄物はどうなっているのかなどに思いをはせ、電力を選んでほしいと思います。



2. 各生協からの報告

○生活クラブ生協

- ・ 9/15（土）本八幡の「京葉ガスてらす」にて豚肉学習会を開催し、58名が参加しました。山形県から平田牧場株の生産者がお見えになり、生活クラブの平牧3元豚の美味しさの秘密を学習し、豚肉の半身（骨付き）をさばいて部位に分けるなど1頭無駄なく食べることを伝えました。
- ・ 10/5（木）には鶏肉学習会を南流山センターで開催し、28名が参加しました。山口県から秋川牧園の生産者がお見えになり、生活クラブの鶏肉「丹精國鶏」の国産鶏種についてや餌・育て方の違いを学び、鶏肉をさばき部位ごとの食べ方などを学習しました。
- ・ 10/14（土）には千葉県漁連のご協力のもと「海の学校」を開催し、44名が参加しました。千倉漁協の漁師の皆さんの漁業のお話、魚博士のクイズ大会、伊勢海老とアワビの畜養場の見学のあと皆でアジの開きを作り、充実した1日となりました。

○コープみらい

- ・ 7/25（火）に、松戸市との共催で夏休み親子消費者教室「みぢかなエシカル～もったいないを考えよう&みつろうエコラップづくり～」が、「男女共同参画センターゆうまつど」にて開催され、千葉6区ブロック委員3人、活動サポーター4人、ブロックサポーター3人が参加しました。当日は、親子14組29人が、エコラップ作りや食料分配ゲームを通してエシカルやコープのエコ活について学ぶ機会になりました。

○パルシステム千葉

- ・ 9/2（土）15世帯58名、9/9（土）13世帯48名がちば緑耕舎で稲刈り体験をしました。高温の影響が心配されましたが、実りも多く豊作であるとお話で、参加者は新米のおにぎりとお漬物の試食を楽しみました。また、夏休みの自由研究に役立つ小学生向けワークシート「ごちそうさまチャレンジシート」の提供を行ったところ、パルシステム千葉で109件（パルシステム全体では717件）の参加があり、食品ロスについて考えるよい機会となりました。

○なのはな生協

- ・ 「生産者交流会をメインに活動しました。まず夏休み親子企画として鎌倉ハムクラウン商会の手作りウィンナー講習会を行いました。定員の3倍を超える応募があり、関心の高さがうかがえました。また、蒲鉾の八木橋実演では、職人の技を直でみることができ、こだわりや実食で更にファンが増えました。体験型として、こうごき自然塾稲刈り、みみずの会の収穫体験がありました。家族のご参加が多く、生産者の方にいろいろお話を伺いながら、自然の中で体験されとても良い経験をされていました。

◆ 次回 第4回食・消費者委員会 12月11日 14時～16時 開催予定 以上

第28回エコメッセ2023 in ちば 開催報告



10月15日（日曜日）に幕張メッセ国際会議場で「第28回エコメッセ2023inちば」が開催されました。千葉県生協連は共催団体として協力しています。今年度の会場展示には、約2,300人が来場しました。

今年度のエコメッセのテーマ「PEACE:身近な暮らしからもう一歩!」のもと、市民団体・大学・企業・行政等が各団体の主たる活動目標をSDGs(持続可能な開発目標)達成のための17のターゲットから選び、ホームページ上でのオンライン展示(20団体)や会場でのブース展示(65団体)で、それぞれの取り組みを紹介しました。

今年度のメイン企画は「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」でした。高校生、大学生の環境活動に取り組む5つのグループが、その活動を発表し来場者の投票によって1位を決めるというものです。今回は千葉県立成田西陵高校の園芸科作物専攻「成田日本菫復活チーム」の取り組みが、第1位に入賞しました。

生協連からはパルシステム千葉、コープみらい千葉県本部が出展し、エコに関する活動を紹介しました。



パルシステム千葉



コープみらい千葉県本部



若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト 授賞式



コンテスト風景

千葉県生活協同組合連合会会員一覧

生活協同組合コープみらい	千葉県本部所在地 千葉市中央区新田町 36-15 HP アドレス https://mirai.coopnet.or.jp/
生活協同組合パルシステム千葉	所在地：船橋市本町 2-1-1 船橋スクエア 21 4F HP アドレス https://www.palsystem-chiba.coop/
生活クラブ生活協同組合	所在地：千葉市美浜区真砂 5-21-12 HP アドレス https://chiba.seikatsuclub.coop/
なのはな生活協同組合	所在地：千葉市稲毛区長沼原町 678-2 HP アドレス https://nanohana-coop.net/
千葉県庁生活協同組合	所在地：千葉市中央区市場町 1-1 HP アドレス http://www.chibakenseikyo.or.jp/
千葉大学生生活協同組合	所在地：千葉市稲毛区弥生町 1-33 HP アドレス http://www.univcoop.jp/chiba-u/
東邦大学消費生活協同組合	所在地：船橋市三山 2-2-1 HP アドレス https://www.univcoop.jp/toho/
千葉商科大学生活協同組合	所在地：市川市国府台 1-3-1 HP アドレス http://www.univcoop.jp/cuc/
千葉県学校生活協同組合	所在地：千葉市中央区中央 4-13-10 千葉県教育会館新館 6F HP アドレス https://www.jcgsk.com/
生活協同組合ちば住宅コープ	所在地：船橋市前原西 2-12-7 津田沼第一生命ビルディング 6F HP アドレス http://www.cjcoop.or.jp/
千葉県高齢者生活協同組合	所在地：千葉市美浜区真砂 5-21-12 HP アドレス http://chiba-koureikyou.sakura.ne.jp/
千葉県勤労者共済生活協同組合	所在地：千葉市中央区弁天 1-17-1 HP アドレス http://www.zenrosai.coop/
〈準会員〉東都生活協同組合	所在地：東京都世田谷区船橋 5-28-6 吉崎ビル 4F HP アドレス http://www.tohto-coop.or.jp/
〈準会員〉常総生活協同組合	所在地：茨城県守谷市本町 281 HP アドレス https://www.coop-joso.jp/



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



チーバくん
ちばSDGs

ホームページを4月1日に
リニューアルしました。



千葉県生活協同組合連合会

千葉市中央区中央 4-13-10 (千葉県教育会館 5F)

tel. 043-224-7753 fax. 043-225-3459

<http://chiba-kenren.jp/>